

20 土 第 114 号
平成 20 年 10 月 20 日

国土交通省道路局長 様

いわき市長
櫛田 一 男



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）
（対 9 月 19 日 国道企第 37 号）

このことについて、別紙のとおり回答いたしますので、よろしくお取り計らい願います。

事務担当：いわき市土木部土木課

TEL 0246(22)7482

FAX 0246(24)2119

**「地方の自立と発展のため道路網の整備は必要不可欠であり、
そのためには、これまでどおり、
安定的に必要な道路予算が確保されることを要望する」**

本市は、全国各地で進展した「平成の大合併」より約40年早い昭和41年に14市町村による合併により誕生し、全国でも有数の市域面積を有する広域多核都市であり、これまで、市域の一体的な発展を目指し、各種施策に取り組んできたところである。

また、本市にとりましては、市内各地域間の連携を強化し、さらには、首都圏をはじめとする各地域との交流連携を図ることは、豊かな自然と活力ある市街地が共生する魅力あるまちづくりを推進する上で重要な課題であり、さらなる市域の一体的な発展を目指すため、分散している市街地間の移動性向上や市街地部と中山間地域の連携強化を図ると共に、製造品出荷額東北第一である本市の物流効率化にも寄与する幹線道路を主体とした「体系的な道路ネットワークの形成」を図ることが、本市の道路行政における最重点事項である。

一方で、自動車への依存度が高い地方都市にとりまして、日常生活や産業経済活動を行う上で、道路が果たす役割は極めて大きいところであるが、本市を含め地方の道路は未だ整備途上である。

今後においても、地方の自立と発展のため、道路網の計画的な整備は必要不可欠な状況にある。

また、これまで築き上げてきた橋梁、トンネル等の道路構造物の老朽化は著しく進行しており、誰もが安全に安心して暮らせる社会を支え、市民共有の財産である道路を次世代へ引き継いでいくため、適正な維持更新の必要性が高まっている。

このような中、平成21年度から道路特定財源の一般財源化が予定されているところであるが、これら地方が真に必要とする道路整備や既存道路構造物の維持更新を計画的、戦略的に推進するため、今後におきましても、必要な道路予算が安定的に確保されるよう要望するものである。

②—1 地域の現状と抱える課題

福島県いわき市

○現状

本市は、広域多核型の都市構造を有することから、日常生活における自動車交通の比重が非常に高い状況にある。

これまで、市街地部においては、各地域間を連絡する国・県道等の幹線道路の4車線化やバイパスの整備が進められ、幹線道路網の骨格が構築されつつあるが、依然として市街地内や市街地間において交通渋滞が発生している状況にある。

一方、中山間地域においては、豊かな地域資源がありながら、人口減少や高齢化の急速な進行、農林業の後継者不足など多くの課題を抱え、市街地部との地域間格差が憂慮されているところであり、そのため、市街地部と中山間地域を連絡する立ち遅れた幹線道路の整備や中山間地域間を有機的に連絡する道路の整備が強く求められている状況にある。

また、本市においては、平成19年4月現在、市道8,714路線（延長約3,490km）の中で、市道橋約2,100橋を管理する外、約60kmに及ぶ海岸線や阿武隈高地を有する地形的特性から、各所に存する急峻な法面を管理しており、これら道路構造物において著しく老朽化が進行している状況にある。

○課題

左記の現状を踏まえ、次の3点を課題として整理。

- ①市街地内や市街地間の交通渋滞の解消を図るため、渋滞がなく「円滑」に走れる道路の整備。
- ②各地域間（市街地間、市街地と中山間地域間、中山間地域間等）の移動性向上を図るため、体系的な道路ネットワークの構築。
- ③老朽化が進む橋梁やトンネル等の道路構造物の適正な維持更新

「体系的な道路ネットワークの形成により、市域の一体的な発展を目指す」

本市としては、高速道路、国道、県道等の幹線道路を主体とした体系的な道路ネットワークを構築することにより、市街地間の移動性向上、市街地部と中山間地域の連携強化を図り、市内それぞれの地域が持つ多様な資源や特性を活かしながら、地域間の交流や連携を促進し、市域の一体的な発展（活力ある市街地の形成、中山間地域の振興）を図りたい。

「誰もが安全に安心して暮らせる社会を支え、市民共有の財産である道路を次世代へ引き継ぐ」

本市の道路整備においては、幹線道路を主体とした「体系的な道路ネットワークの形成」はもとより、急増している高齢者や女性の自動車利用の視点に立った安全性の高い生活道路の整備や自然災害に強い道路の整備、さらには、交通事故縮減に向けた通学路等における歩道の整備など、多様化する市民ニーズに的確に対応するため、道路空間の再配置や既存ストックの有効活用などを図りながら、各種道路施策を推進し、「誰もが安全に安心して暮らせる社会」を支えていきたい。

また、道路の維持管理においては、道路構造物の長寿命化を図るなど、効率的で適正な維持管理に努め、市民の共有の財産である道路を次世代へ引き継いでいきたい。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

福島県いわき市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上	市内各地域間を連絡し、産業経済拠点への円滑な交流を確保する幹線道路の機能強化 (例)直轄国道(国道6号常磐バイパス、国道49号平バイパス等)の4車線化	幹線道路の機能強化により、安全で円滑な交流が確保され、市内各地域間や産業経済拠点間の移動時間の短縮が図られることから、産業・経済の発展及び地域の活性化に寄与するとともに、市域の一体的な発展に大きく貢献する。	